



海上安全だより

海難“0”を目指して！！

第一管区海上保安本部

交通部

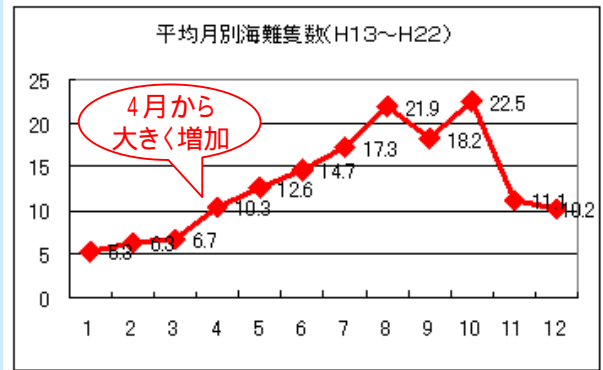
平成23年5月 No.22

いよいよ本格的に海の時期が始まります

北海道にも春が訪れ、漁船やプレジャーボートを中心に、いよいよ船舶の活動が活発になってきました。それに伴い、海難の増加が予想されます。

グラフは過去10年の海難隻数を月別に平均したものです。4月から大きく増加し始め、冬季に入るまでその傾向が続いていることがわかります。

運航に関わる皆様は、**安全運航に努めるよう、**お願いします。

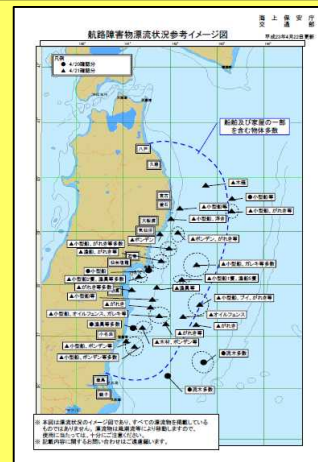


東日本大震災に伴う航路障害物漂流状況について

東日本大震災では大量のがれきが太平洋に流出し、今も海上を漂流している状況ですが、これらが北海道の方向へ漂流してきた場合、道内の船舶と衝突することも考えられます。

漂流物の情報は航行警報と並行して、インターネット上にも掲載しています。

最寄の海上保安部MICSホームページからアクセスして閲覧することも可能ですので、**太平洋沿岸を航行する船舶は特に注意してください。**



掲載例

URL <http://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/driftMICS.pdf>

(AIS)石狩湾港外で発生した走錨事例について

4月16日午後11時頃、石狩湾港外に投錨した外国貨物船(総トン数2,497t 空船)が走錨しているのを第一管区海上保安本部がAISにより確認し、注意喚起を行い乗揚げを回避することができました。

なお、現場海域は北西の風16m/s、波3mと時化模様で、該船は約350m走錨しました。



石狩湾港の底質は、**錨かきが悪い砂**である上、**北から北西寄りの風を直接受けやすく、荒天時には走錨の危険性が高い場所**で、**風圧面積の大きい空船時には、特に注意が必要です。**

平成16年11月、走錨した外国貨物船が防波堤に衝突・沈没し、船長以下7名が死亡しています。

また、平成22年3月、外国貨物船が同じ場所で走錨し乗揚げ、離礁まで約1ヶ月を要しました。

いずれの船舶も積荷の無い空船でした。

走錨防止対策として、以下の3点について遵守願います。

- 最新の気象・海象情報の入手
- 適切な錨地・使用錨鎖長の選定
- 走錨監視(ワッチ)の徹底、機関の準備及びAIS装置の電源常時ON並びにVHF(CH16)の常時聴取

AIS搭載船舶へのお願い

- (1) AIS装置の電源は常時ONにし、操作方法を確認しておきましょう。
- (2) 自船の位置情報が正しく入力されているか定期的に確認しましょう。
- (3) 船舶データ、船舶の動静(航行中、錨泊中等)、目的地およびETA(到着予定時刻)の航海関連情報を正確に入力しましょう。
- (4) AISメッセージの受信時に、受信音が聞こえるようにしましょう。
- (5) 連絡手段確保のためVHF(CH16)を常時聴取しましょう。

ご要望、ご意見は第一管区海上保安本部交通部まで

TEL 0134-27-0118

(内線: 2615, 2623)

次号へ続く~